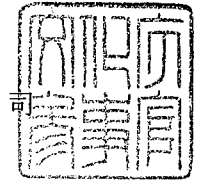


各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国・公立大学法人附属学校事務主管課

御中

文化庁参事官（芸術文化担当）

梶山正司



(印影印刷)

令和2年度伝統音楽指導者研修会の開催について（依頼）

日頃から文化庁の事業に御協力いただきありがとうございます。

さて、令和2年度の伝統音楽指導者研修会については、下記の通り授業実践コースをオンラインで実施するとともに実技研修に係る動画コンテンツを配信することとなりました。

については、授業実践コースの受講者及び動画コンテンツの視聴希望者の推薦について、(別紙1)「受講希望者等の報告について」に基づき、各主管課等でとりまとめ御報告ください。

記

1 目的

音楽を担当する指導主事等に対し、学習指導要領に基づいた我が国の伝統音楽の指導に係る研修を行い、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言を行うことによって、我が国の伝統音楽の指導の充実を図る。

2 主催 文化庁

3 共催 国立大学法人東京藝術大学

4 開催期日及び受講希望者報告提出期限

開催期日(授業実践コース)	受講希望者等報告提出期限
令和2年12月18日(金)	令和2年11月20日(金)

(参考) 動画コンテンツ視聴可能期間(予定)

令和2年12月25日(金)～令和3年1月15日(金)

希望者の報告期限は、授業実践コースと同じです。

(動画コンテンツ配信の詳細は決定通知でお知らせします。)

5 日程及び内容（予定）

〔授業実践コース〕 ※令和2年12月18日（金）オンライン（リアルタイム）で実施

9:10	45	10:00	20	40	50	11:50	12:50	14:10	20	15:05	20	16:20	16:30
受付	開会行事	講義1	講義2	休憩	講演	休憩	実技研修とミニコンサート	準備・休憩	実践報告	説明・準備	グループ協議	まとめ	

- 「講義1」 講師：文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官 河合紳和
- 「講義2」 講師：文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官 志民一成
- 「講演」 講師：東京藝術大学 塚原康子教授 「伝統音楽における民謡の位置づけ」
- 「実技研修とミニコンサート」 講師：伊藤多喜雄氏（民謡歌手、作詞・作曲家）
- 「実践報告」 小・中・高等学校等の教員による民謡等の指導に係る授業実践報告
- 「グループ協議」 受講者の事例等を基にしたグループ協議

〔動画コンテンツの視聴〕 ※視聴可能期間にオンデマンドで実施

- 視聴可能期間（予定）

令和2年12月25日（金）～令和3年1月15日（金）

- 配信予定コンテンツ等

- ・山田流箏曲、尺八（都山流・琴古流）、長唄三味線、謡曲宝生流の4種目を配信予定です。
 - ・動画は、各種目【解説篇】と【演奏篇】の内容で構成し、1種目につき30～40分程度の予定です。
 - ・本配信に関するテキストの作成・配布はありません。
- （過去に伝統音楽指導者研修会を受講された方は、その際のテキストを参考としてください。）

※その他詳細は決定通知でお知らせします。

6 授業実践コースの研修方法

- インターネットを利用したオンライン、リアルタイムでの受講となります。
- 受講には、カメラ、マイク機能のあるPC（ノート型、タブレット型等）またはスマートフォンが必要です。
- 研修は、ZoomなどのWEB会議アプリを使用して行う予定です。
- 研修場所は、各受講者の状況に応じて設定してください。

7 授業実践コース受講希望者の報告について

(1) 対象者

- 指導主事又は小・中・高等学校、特別支援学校等の教諭等であって、今後各地域で本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定のある者
- オンライン研修受講に必要な機器、環境（会場等）を準備できる者
- 原則として、全ての研修プログラムを受講できる者

(2) 受講（募集）人数

- 各都道府県、指定都市教育委員会から2名以内を推薦可
 - 私立学校、国公立大学附属学校からは各校1名を推薦可
- ※受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。

(3) 受講希望者の報告

各教育委員会等は「受講希望者等名簿」を作成し、令和2年11月20日(金)までに、文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室宛てに、電子メールで報告してください。(別紙1「受講希望者等の報告について」参照)

8 動画コンテンツの視聴希望者の報告について

(1) 対象者

- 過去の伝統音楽指導者研修生の受講者で、復習のため視聴を希望する者
- 本年度、授業実践コースを受講する者
- 各教育委員会等において必要と判断される者(本年度、伝統音楽指導者研修会への参加を予定していたが、授業実践コースの受講ができなかった者等)

(2) 視聴可能人数

- (1)の対象者に該当する者は、原則として視聴可とします。

(3) 視聴希望者の報告

各教育委員会等は「受講希望者等名簿」の所定の欄に、視聴希望者の氏名、所属等必要事項を記入し、令和2年11月20日(金)までに、文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室宛てに、電子メールで報告してください。(別紙1「受講希望者等の報告について」参照)

9 受講者等の決定

- (1) 文化庁は授業実践コースの受講者及び動画コンテンツの視聴者を決定し、11月下旬を目途に、各教育委員会等に対して、通知します。
- (2) 授業実践コース受講希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定・連絡します。
- (3) WEB会議及び動画配信の詳細情報等は、決定通知で合わせて連絡します。

10 その他

(1) 受講者決定後、別紙2「実践事例等の提出について」により、

- ① 授業実践コース受講者には、「伝統音楽の指導に関する実践について」(様式1)※を、
- ② 都道府県、指定都市教育委員会には、「伝統音楽指導者研修会受講者の活用について」(様式2)を提出していただきます。

※(様式1)については、「民謡に関する実践」があれば、その事例で作成してください。

無い場合は、その他の「伝統音楽の指導に関する実践」で作成してください。

- (2) 本研修終了後に、受講者アンケート等を行います。また、本研修会の受講後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがあります。
- (3) 研修会受講に係る服務等については、各都道府県、所属校等の判断によるものとします。
- (4) 「受講希望者等名簿」のエクセルファイルはメールにて送付します。

【添付文書】

- ・(別紙1) 受講希望者等の報告について
- ・(別紙2) 実践事例等の提出について
- ・(様式1) 伝統音楽の指導に関する実践について
- ・(様式2) 伝統音楽指導者研修会受講者の活用について

【本件担当】

文化庁参事官(芸術文化担当) 付
学校芸術教育室(中山、鈴木)

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話:03-5253-4111(内線3163)

FAX :03-6734-3814

E-mail:artedu@mext.go.jp

令和2年度伝統音楽指導者研修会

受講希望者等の報告について

以下の要領で「受講希望者等名簿」を作成し、文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室教育課程係 (artedu@mext.go.jp)宛て電子メールにて送信してください。

- 1 各都道府県及び指定都市教育委員会
管内の受講希望者及び動画コンテンツの視聴希望者を、「受講希望者等名簿」に取りまとめて報告(私立学校、国公立大学法人附属学校は除く)
- 2 私立学校事務主管課
受講希望者及び動画コンテンツの視聴希望者があった場合は、「受講希望者等名簿」に取りまとめて報告
- 3 国公立大学法人附属学校事務主管課
受講希望者及び動画コンテンツの視聴希望者があった場合は、「受講希望者等名簿」に取りまとめて報告

※通知文及び「受講希望者等名簿」の電子データはメールにて送信します。

届いていない場合は、学校芸術教育室教育課程係 (artedu@mext.go.jp)へメールでご連絡ください。

〔「受講希望者等名簿」作成上の留意事項〕

- 1 「受講希望者等名簿」(Microsoft Excelファイル)に必要事項を記入の上、令和2年11月20日(金)までに、学校芸術教育室教育課程係 (artedu@mext.go.jp)へ提出してください。
- 2 ファイル名は、「都道府県・指定都市番号+都道府県・指定都市名等+伝音名簿」としてください。

※例: 13東京都伝音名簿.xlsx

13東京都私立伝音名簿.xlsx

13東京都〇〇大学附属〇〇伝音名簿.xlsx

〔記入上の注意事項(エクセルファイルの「記入例」参照)〕

- (1) 授業実践コース受講希望者と動画コンテンツ視聴希望者は同じシートに記入してください。
- (2) 「学校種」はプルダウンから選択してください。
- (3) 行が足りない場合は必要に応じて、行を挿入してください。
その他の書式は変更しないでください。
- (4) 担当者欄は、今後本事業の各県等の窓口となる者を記入してください。

(5) 都道府県・指定都市の番号は以下の番号を入力してください。

※私立学校、附属学校も所在地の県等の番号を入力してください

1 北海道	2 青森県	3 岩手県	4 宮城県	5 秋田県
6 山形県	7 福島県	8 茨城県	9 栃木県	10 群馬県
11 埼玉県	12 千葉県	13 東京都	14 神奈川県	15 新潟県
16 富山県	17 石川県	18 福井県	19 山梨県	20 長野県
21 岐阜県	22 静岡県	23 愛知県	24 三重県	25 滋賀県
26 京都府	27 大阪府	28 兵庫県	29 奈良県	30 和歌山県
31 鳥取県	32 島根県	33 岡山県	34 広島県	35 山口県
36 徳島県	37 香川県	38 愛媛県	39 高知県	40 福岡県
41 佐賀県	42 長崎県	43 熊本県	44 大分県	45 宮崎県
46 鹿児島県	47 沖縄県	48 札幌市	49 仙台市	50 さいたま市
51 千葉市	52 川崎市	53 横浜市	54 相模原市	55 新潟市
56 静岡市	57 浜松市	58 名古屋市	59 京都市	60 大阪市
61 堺市	62 神戸市	63 岡山市	64 広島市	65 北九州市
66 福岡市	67 熊本市			

[参加希望者名簿送信先]

文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室教育課程係

E-mail : artedu@mext.go.jp

[担当] 文化庁参事官（芸術文化担当）付 学校芸術教育室教育課程係

電話：03-5253-4111(内線3163)

令和2年度伝統音楽指導者研修会

実践事例等の提出について

伝統音楽指導者研修会（令和2年度は授業実践コースのみ）受講者及び各都道府県・指定都市教育委員会は下記によりそれぞれ、「伝統音楽の指導に係る実践事例」、「伝統音楽指導者研修会参加者の活用について」を提出してください。

記

〔伝統音楽指導者研修会受講者〕

- 1 提出物 「伝統音楽の指導に係る実践事例」（様式1）
- 2 内容 我が国の伝統音楽に関する音楽科（高等学校にあつては芸術科）の授業実践事例（実践のない場合は題材の指導計画）※記入例参照
- 3 その他 用紙はA4片面で2枚以内とし、PDF形式で提出してください。

〔都道府県・指定都市教育委員会〕

- 1 提出物 「伝統音楽指導者研修会参加者の活用について」（様式2）
- 2 内容 本研修会の受講者が講師等となって実施した（実施予定を含む）教育委員会等主催の伝統音楽に関する研修会の指導実績
- 3 その他 実績は平成27年度以降のものを記入してください。（今後の予定も可）
本資料については、今年度の伝統音楽指導者研修会に参加予定のない都道府県及び指定都市についても該当がある場合は提出してください。

〔共通事項〕

- 1 提出期日 令和2年12月7日（月）
- 2 提出方法 都道府県・指定都市教育委員会においては取りまとめて電子メールで提出（様式1、様式2）
私立学校及び国公立大学附属学校においては各学校から電子メールで提出（様式1）
- 4 提出先 文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室
E-mail : **artedu@mext.go.jp**
- 3 その他
 - (1) 提出された資料等は、本研修会の運営等の参考に資するとともに、我が国の伝統音楽に関する取組の一例として公表することがあります。また、「伝統音楽の指導に係る実践事例」は参考資料として本研修会の参加者にデータ等で配布する予定です。このことを踏まえ、写真や図表を掲載する場合には、著作権や肖像権などの取扱いに適切な配慮を行ってください。
 - (2) 様式1、2の電子データは、通知とともにメールで送付します。

伝統音楽の指導に関する実践事例について

都道府県・指定都市名		都道府県等番号	
学校名又は機関名			
職 名			
氏 名			

1. 実践の概要（基本情報）

学 校 名		学年	第 学年
題 材 名（教材名）			
題 材 の 目 標			
使用楽器(数及び備品等の別) 又は歌唱内容	数：	(内備品： レンタル： 他：)	

2. 指導におけるポイント

指導上の工夫 他の参考となる点	
--------------------	--

学習の成果 児童生徒の感想	
------------------	--

指導上の課題 難しかった点	
------------------	--

実践を通しての感想 今後取り組みたいこと	
-------------------------	--

3. 学習指導の展開

時	主な学習活動	教師の指導・支援

4. 範奏、範唱や指導等を行う外部講師の活用

活用の内容・成果	
----------	--

活用上の課題	
--------	--



伝統音楽の指導に関する実践事例について

都道府県・指定都市名	〇〇県	都道府県等番号	〇〇
学校名又は機関名	〇〇市立〇〇中学校		
職名	教諭		
氏名	〇〇 〇〇		

1. 実践の概要 (基本情報)

学 校 名	〇〇市立〇〇中学校	学年	第 3 学年
題 材 名 (教材名)	和の世界を奏でよう (箏曲「さくらさくら」、器楽・創作・鑑賞)		
題 材 の 目 標	箏の特徴や基本的な奏法を知り、音色の美しさを感じながら演奏する。		
使用楽器(数及び備品等の別)又は歌唱内容	例：箏 (↓も記入) 例：長唄 等 数：20 (内備品：10 レンタル：10 他：0)		

他の参考となるような例があれば2へも記入してください。

2. 指導におけるポイント

指導上の工夫 他の参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の演奏を軸に、他の楽器による効果音を加えて、和の音楽をつくるための工夫を考えさせた。 ・箏の数の関係から、5人1組のグループ活動にした。 ・簡単なパート譜を用意し、アンサンブルに参加しやすくした。 <p>箇条書きでポイントを端的に記入してください。</p>
学習の成果 児童生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に演奏に参加する姿が見られた。 ・授業感想には「初めてだったけど、うまく音を出せてよかった」「楽しかったので、またぜひやってみたい」という感想が多く見られた。 ・
指導上の課題 難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数に対し、箏の数が足りない。 ・なるべく全員に箏を弾かせるには、時間数がかかりすぎてしまう。 ・ ・ <p>必要に応じて記入枠を上下方向に広げたり狭めたりしてください。</p>
実践を通しての感想 今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、指導が難しいのではないかと心配したが、生徒たちが予想以上に楽しそうに演奏するのを見て、手応えを感じた。 <p>必要に応じて記入枠を2ページ目に移動してかまいません。</p>

3. 学習指導の展開

ここには実際の学習指導の様子を書く。実践に合わせて、工夫してまとめる。

時	主な学習活動	教師の指導・支援
1		
2		

表を挿入するなどして、見やすくまとめてください。

導入		
展開		

学習の中心となる時間の指導例を記載してください。
省略可（題材の計画のみでも可）
1時間扱いの場合は題材の計画を省略
表の書式は変更してかまいません。

4. 範奏、範唱や指導等を行う外部講師の活用

活用の内容・成果	<p>(記入例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師（学校予算）1名による箏の模範演奏。 生徒に箏の音色の美しさや奏法の違いによる表現の違いを感じてもらうことができた。 外部講師が箏の不足分を持ってきてくれたので、1人1面使うことができた。
----------	---

活用上の課題	<p>(記入例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内在住の外部講師を探すのが難しかった。 学校予算の都合上、1時間しか指導してもらえなかった。
--------	---

本事例を公表する場合もあるので、写真を入れる場合は、掲載の了解が取れているものをお願いします。

2ページ以内でまとめてください。

〔参考〕

※（文化庁からのご案内）範奏、範唱や指導等を行う芸術家の学校への派遣支援

文化庁では、芸術系教科の授業や学校行事等において活用いただくため、学校が選んだ芸術家（個人または少人数）を翌年度その学校に派遣し、教室や体育館等で範奏、範唱、指導や講話等を行って頂く事業を実施しています（芸術家の派遣事業【学校公募型】）。

また、オーケストラや能楽、バレエ、邦楽等、文化庁が選んだ一流の文化芸術団体の中から学校が希望した文化芸術団体を翌年度その学校に派遣し、体育館等で事前ワークショップ（鑑賞指導及び範奏、範唱や指導等）及び本公演を行って頂く事業も実施しています（巡回公演事業）。

これらは、文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」の中で実施しており、芸術家への謝金（講師1人35,000円／回、補助者5名まで）や旅費、諸雑費（楽器運搬費・著作権使用料等）、文化芸術団体の公演費（ワークショップ含む）や旅費は文化庁が負担いたしますので、是非ご利用いただけますと幸いです。

◆文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」パンフレット

<https://www.kodomogetjutsu.go.jp/dl/pamphlet.pdf>

◆芸術家の派遣事業

<https://www.kodomogetjutsu.go.jp/haken/index.html>

◆巡回公演事業

<https://www.kodomogetjutsu.go.jp/junkai/index.html>

伝統音楽指導者研修会受講者の活用について

※伝統音楽指導者研修会受講者が講師等となって実施した教育委員会等主催の伝統音楽に関する研修会(平成27年度以降のもの 今後の予定を含む)

1行目の例は、入力時消去してください
(この枠も提出時に消去してください)

都道府県・指定都市名	
------------	--

	実施年度 時期	主催等	研修会の名称	対象者	受講者数	講師について		研修会の概要(概要, 伝統音楽指導者研修会受講者の関わり方など)
						氏名	年度・分野	
1	(例) 平成30年 10月	県教育委員会	音楽科授業研究会	小中 音楽教員	約20名	〇〇 〇〇	H29・ 箏生田	研究授業(中2器楽「箏」)の発表と提案
2								
3								
4								
5								

(注)

1. 本調査は、文部科学省主催の伝統音楽指導者研修会に受講者として参加した者が、都道府県教育委員会、市区町村教育委員会及び各音楽教育研究会が主催する学校教職員等を対象とした伝統音楽の指導に関する研修会(都道府県及び市区町村の教員研修センター等が主催する研修会をむ。単独の学校主催の研修会や有志による研究会等は除く。)において、講師等となって実施したもの(研修内容の企画・立案や補助者など運営に関わるものを含む。)に関わった事例について記入してください。
2. 域内の市区町村教育委員会や音楽教育研究会が主催する研修会について把握しているものがある場合は記入してください。
3. 「講師について」の欄には、氏名の次の枠に、伝統音楽指導者研修会の受講年度と受講分野を記入してください。複数回受講している場合は、直近の受講のみの記載で結構です。
4. 「研修会の概要」欄には、研修内容の概要のほか、伝統音楽指導者研修会の受講者がその研修会にどのように関わったかについても記入してください。また、扱った和楽器の種類や題材なども分かる範囲で記入してください。
5. 記入する欄が不足する場合は、適宜欄を設けて記入してください。